

審判員派遣報告書

派遣事業名	第52回全国中学校 バスケットボール大会	派遣期日	令和4年8月21日～23日
報告者	仲地祥吾	派遣先	北海道札幌市

1 大会概要

大会名称	第52回全国中学校 バスケットボール大会	大会期間	令和4年8月21日～23日
大会概要	各ブロックを勝ち抜いた男女全24チームが予選リーグを戦い、16チームが決勝トーナメントに進出する。		

2 担当試合 ※（試合内容は簡潔に書いてください）

日程	令和4年8月21日	会場	北ガスアリーナ札幌46
審判クルー	CC: 仲地祥吾（香川） U1:石嶺壮一郎（沖縄） U2:門脇堯洋（北海道）		
担当試合	中島（北信越） VS 実践学園（関東）		
試合内容	終始均衡した試合出会った。終盤にペースを握った中島が僅差で勝利した。		

日程	令和4年8月22日	会場	北海きたえーる
審判クルー	CC: 鈴木悟（北海道） U1:仲地祥吾（香川） U2:宮崎拓（広島）		
担当試合	豊野（関東） VS メリノール（東海）		
試合内容	序盤はメリノールが主導権を握っていたが、後半に豊野が追い上げる。ファウルトラブルもあり、最終的にはメリノールが勝利した。		

3 大会（研修会）を通して 《 学んだこと 感じたこと 県内審判に伝えたいこと 等 》

●審判会議・大会前研修より

1 インテグリティについて

本大会もこれまでに引き続き、暴力・暴言の根絶をモットーにコーチの言動について注意していくことを確認。振る舞いについては、RFGの精神に欠けるものがあればTFをコールすること。しかし、進んでTFをコールしようということではない。その時のコーチの状況や精神状態にもよるが、話をできる状態なのであれば良いコミュニケーションを取ることで、TFを回避することがベターである。

2 今大会のPOE

今大会のPOEはインターハイに引き続いて、処置ミスゼロ・トラベリング・ポジションアジャストの3点であった。特に、予選リーグがトーナメントではなくリーグ戦であることから、試合の勝敗に関わらず得点については特に注意を払うようにということであった。

3 各試合の振り返り

① 8月21日 予選リーグ：中島（北信越） VS 実践学園（関東）

3ポイントが多い試合であったため、クロー間で2or3をよく確認するように心がけた。また、プレーコーリングにおいては、序盤からコンタクトが多い試合であったので試合開始からテンポセットをできるように意識した。ファウルの数が多かったこともあり、コーチが判定に対して納得していないケースもあった。一方のベンチが熱くなると、もう一方のベンチも同様に熱くなり、コーチとコミュニケーションを取ることが難しい試合であった。自分のプライマリを正確に吹くことは当然のことながら、クローがなぜファウルをコールしたか、またはコールしなかったかも含めて理解し、良いタイミングで判定についてコーチとコミュニケーションを取ることが大切であると感じた。ゲームコントロールについてさらに知識と理解を深めなければいけないと感じた試合であった。

② 8月22日 準々決勝：豊野（関東） VS メリノール（東海）

コンタクトが多く、また試合展開も早いいため非常にタフな試合であった。1試合を通してのクローの課題はプライマリとメカの理解であったと思う。デュアルカバレッジエリアのダブルコールについてどちらがコールをしにいくかや、クローがどのアングルでどのプレーを見ているかについて把握しておくことが大切である。U15カテゴリーにおいてはマンツーマンディフェンスのみという制限が課されているため、試合では1on1が多くなることは必然である。そのため、ボール中心の視野にならないように注意しようという内容のPGCを行っていたが、試合の展開がヒートアップしてくるとクロー全体がボール中心の視野になっていたように感じた。タフな試合こそベーシックを大切にし、一つ一つ正確な判定を積み上げていくことが重要だと実感した。

4 大会全体を通して

今回、約10年ぶりに全国中学の審判を担当した。想像以上に個人技やフィジカルのレベルが上がっており、同時に求められている審判技術も上がっているというのが第一印象であった。特にマンツーマンディフェンスの制限により1on1が多くなるため、メカの部分ではプライミアアングルとエリアの理解、プレーコーリングにおいてはコンタクトの責任の所在について正確な理解と知識が必要であると感じた。インターハイと全中を通して感じたことはベーシックがいかに大切であるかということである。全国大会においては初めて審判をすることになるクローがほとんどである。たとえ初めて会うクローであっても、ベーシックなメカとガイドラインについては必ず正確な知識が共有されていなければならない。ベーシックについては既知の知識であるからといって蔑ろにするのではなく、常に学び研鑽を積んでいかなければいけないと感じた。

5 2023香川全中に向けて

次年度はいよいよ地元開催を迎える。今年度にインターハイを経験し、地元審判員のレベルは以前に比べ確実に向上している。インターハイを経験したメンバーに加え、新規に全中を希望している7名とともに、更なるレベルアップに向けて引き続き精進していきたいと考えている。今回の大会で得た知識と経験を地元に戻し、大会成功に向けて準備していきたい。

今回の派遣に際してご理解とご協力を賜りました香川県バスケットボール協会の皆様に御礼申し上げます。引き続き、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願いたします。

審判員派遣報告書

派遣事業名	第52回全国中学校 バスケットボール大会	派遣期日	令和4年8月21日～23日
報告者	岩瀬寛明	派遣先	北海道札幌市

1 大会概要

大会名称	第52回全国中学校 バスケットボール大会	大会期間	令和4年8月21日～23日
大会概要	各ブロックを勝ち抜いた男女全24チームが予選リーグを戦い、16チームが決勝トーナメントに進出する。		

2 担当試合 ※（試合内容は簡潔に書いてください）

日程	令和4年8月21日	会場	北ガスアリーナ札幌46
審判クルー	CC: 岩瀬寛明（香川） U1: 石嶺壮一郎（沖縄） U2: 藤本瑠人（北海道）		
担当試合	大阪薫英女学院（大阪） VS 陽南（栃木）		
試合内容	序盤は大阪薫英が大量リードした。高さで勝る陽南がインサイドとアウトサイドを使い分けたオフェンスで追いついたが、大阪薫英が逃げ切った。		

日程	令和4年8月22日	会場	北海きたえーる
審判クルー	CC: 岩尾圭治（熊本） U1: 岩瀬寛明（香川） U2: 渡辺達朗（福井）		
担当試合	実践学園（東京） VS 田布施（山口）		
試合内容	序盤から接戦となった。緊張感のあるゲームゆえ、選手のインテンシティが高まる場面があり、ゲームコントロールが難しい試合であった。		

3 大会（研修会）を通して 《 学んだこと 感じたこと 県内審判に伝えたいこと 等 》

●審判会議より

予選がリーグ戦であることから、決勝トーナメントに進出するために得失点差が関係する場合がある。大量の得点差によりゲームの結果がおおむね決まった場面でも、1点を大切にするようなゲームの展開が求められる。また、中学生の一生懸命な姿に負けまいと力を出し切ることが大切である。インテグリティの観点からは、選手のみならずコーチやベンチ選手の振る舞いや発言にも留意し、クリーンバスケットを心がけなければならない。

依然として収まらないコロナ禍での大会であることから、審判員の安全を第一に考えることが大切である。審判として参加するために、家族や職場から多大な理解を頂いており、大切な人を守るという観点からも体調の変化があればすぐに報告する。

●審判研修より（講師：JBA U15 担当 加藤暁生氏）

PGCを充実したものにするために、次の点を重点項目としてPGCを行う。

・処置ミスゼロについて

まずはベーシックなメカニクスの実践を心がける。ミスを起こさないために何ができるか、起きた時

にどう対応するかを確認。(クロック管理、チームファウル、同時刻入退場など)

- トラベリングについて

プレーコーリングガイドライン(20210901)の映像を参考に「0ステップを適用しないケース」を確認。動きながらでないもの、突き出しが遅れているもの、軸足がずれているものなど、明らかなものをしっかりと判定すること。確認ができずはっきりしないものをコールしてしまうと、ゲームコントロールを失うことにも繋がってしまう。

- ポジションアジャストについて

ゲーム中に起こっていることを「知っている」という状況を作る。それを成し遂げるためにベーシックなメカニクスに加えて、フロアバランスを意識したり、オフェンスとディフェンスの距離や角度を頼りに何が起こるかを予想したりすることが求められる。それらを実践した上で見えたものを信じてコツコツとコーリングガイドラインに基づいた判定を続けていく。

3or2 に関してはクルーでの協力が必要。基本はプライマリーが確認するが、プライマリーの状況(確認しづらい角度、プレーの状況)によってはセカンダリーからのヘルプを行う。

- リーグ戦について

予選リーグの順位決定に際して得失点差が関係することから、EOQ、EOG をクルーで徹底する。(ショットを認めるプライマリーはだれなのか、ストロングサイドの作り方 等)

●2023 香川全中に向けて

今大会でも地元審判員によるおもてなしをととても感じた。香川全中でも 2022 香川 IH の成果を繋げていきたい。今回北海道審判員からアドバイス頂いたことや、他県の審判員と交流する中で以下のことが挙げられた。

- 審判員への事前調査の内容をなるべくまとめ、連絡が複数回にならないようにする。

(稼働日、宿泊、現地入りの日程 等)

- 記念ポロシャツ等を作る場合はオンライン決済等の利用をメーカーと相談し、大会当日以外に支払いができるようにする。

- 審判会議や組み合わせ抽選後の割当作業がしやすいように、各会場からある程度近くにある会議室(中学校やホテルの会議室等)を確保しておく。

- 最終日のタイムスケジュールを先に案内し、審判員が帰路予定を立てやすくする。

今後も前年度開催県の方々と打ち合わせを行い、準備を進めていきたい。

4 その他

全国各地の審判員と同じコートに立つ前提として、マニュアルやメカニクスの理解が必須である。今回担当したゲームでもダブルコールが何度かあり、互いに自分のプライマリーを確認しなければならない場面があった。よいゲームを作るためには自身のプライマリーに責任をもち、クルー間で信頼関係を築かなければならない。相手のプライマリーを犯すことで信頼関係が崩れ、よいクルーワークにつながらないことも起こりうる。今後香川全中に向けて県内で講習を行っていく際には、それらの点を重視して行っていきたい。しかしこれまでの自分の活動の成果を感じられる場面もあった。2022 香川 IH を経験し、コート上での経験やコート外での勉強会を通して、自身が実践できること(クロック管理やメカニクスなど)が明らかに増えていることを実感できた。今後も自身のスキルアップが香川県への還元につながるような活動に取り組んでいきたい。

派遣に際してご理解ご支援いただいた香川県バスケットボール協会の皆様、ありがとうございました。引き続きご指導よろしくお願い致します。

審判員派遣報告書

派遣事業名	第52回全国中学校 バスケットボール大会	派遣期日	令和4年8月21日～23日
報告者	平尾 翔汰朗	派遣先	北海道札幌市

1 大会概要

大会名称	第52回全国中学校 バスケットボール大会	大会期間	令和4年8月21日～23日
大会概要	各ブロックを勝ち抜いた男女全24チームが予選リーグを戦い、16チームが決勝トーナメントに進出する。		

2 担当試合 ※（試合内容は簡潔に書いてください）

日程	令和4年8月21日	会場	北ガスアリーナ札幌46
審判クルー	CC: 平尾翔汰朗（香川） U1: 井邊正城（和歌山） U2: 渡邊卓志（高知）		
担当試合	豊野（埼玉） VS 東月寒（北海道）		
試合内容	序盤から豊野が高さとフィジカルで相手を圧倒し、終始ゲームを優位に進めて勝利した。		

日程	令和4年8月22日	会場	北海きたえーる
審判クルー	CC: 尾形美樹（長野・本部） U1: 平尾翔汰朗（香川） U2: 中寺咲来（北海道）		
担当試合	豊野（埼玉） VS 樟蔭（大阪）		
試合内容	序盤から接戦となるゲームであった。両チームのキープレイヤーが力を発揮し、一進一退の攻防を繰り広げたが高さで優った樟蔭が勝利した。		

日程	令和4年8月23日	会場	北海きたえーる
審判クルー	CC: 加藤暁生（東京・本部） U1: 平尾翔汰朗（香川） U2: 齊藤末世志（北海道）		
担当試合	与進（愛知） VS 四日市メリノール（三重）		
試合内容	序盤は与進がいい入りをし、接戦になるがメリノールがディフェンスからペースを掴み徐々に点差を広げていきそのまま勝利した。		

3 大会（研修会）を通して 《 学んだこと 感じたこと 県内審判に伝えたいこと 等 》

●審判会議より

予選がリーグ戦であることから、決勝トーナメントに進出するために得失点差が関係する場合がある。大量の得点差によりゲームの結果がおおむね決まった場面でも、1点を大切にするようなゲームの展開が求められるためゲームクロックが0秒になるまで集中して判定を続けていく必要がある。また、中学生の一生懸命な姿に負けないように力を出し切ることが大切である。

●審判研修より（講師：JBA U15 担当 加藤暁生氏）

次の点を重点項目としてPGCを行ってほしいとのこと。

・処置ミスゼロについて

まずはベーシックなメカニクスの実践を心がける。一人一人がベーシックの徹底を遂行していくことで何かあった時に迅速に対応できる。ミスを起こさないために何ができるか、起きた時にどう対応するかを確認。（クロック管理、チームファウル、同時刻入退場など）

・トラベリングについて

プレーコーリングガイドラインの映像を参考に「0ステップを適用しないケース」を確認。明らかなものをしっかりと判定すること。確認ができずはっきりしないものをコールしてしまうと、ゲームコントロールを失うことにも繋がってしまう。

・ポジションアジャストについて

ゲーム中に起こっていることを「知っている」という状況を作る。それを成し遂げるためにベーシックなメカニクスに加えて、チームがどのようなバスケットをしているのか、しようとしているのかなどを考えRIQを駆使して判定に繋げていく。それらを実践した上で見えたものを信じてコツコツと判定を続けていく。

3or2に関してはクルーでの協力が必要。基本はプライマリーが確認するが、プライマリーの状況やプライマリーレフリーの体の向きなどによってはセカンダリーからのヘルプを行う。また、エッジ下のショットにおいてもLが確認できる場合とできない場合で体の向きを平行にするのか、45°アングルのままにしておくのかははっきりとTレフリーに示す必要がある。

・リーグ戦について

予選リーグの順位決定に際して得失点差が関係することから、EOQ、EOGをクルーで徹底する。（ショットを認めるプライマリーはだれなのか、ストロングサイドの作り方 等）

4 その他

この度は、北海道全中に派遣していただきまして誠にありがとうございました。日頃からお世話いただいております上級審判員をはじめ、県内審判員の皆様には深く感謝申し上げます。

今回の全中で学んだことは「コミュニケーションの大切さ」です。全国大会では、基本的に初めて一緒にコートに立つ人たちと試合を担当することである。そのためにはまず自分がどういう人間であるかなどを他の2人に知ってもらふ必要がある。そのために最初の挨拶からきちんと行なっていくことが大切である。また、PGCではメカニクスやガイドラインなどの確認を行うが気づいた点や確認しておきた点などがあればそのままにせず、その場できちんと解決していくためにコミュニケーションする必要がある。ひとたびコートに立てばゲームフローや選手のインテンシティー・どのようなバスケットが展開されているかなどをクルーで共有できていることで3人が「知っている」という状況を作ることができる。そのような状況を作れることでよりメカニクスがゲームにフィットさせていくことができより良いゲーム運営が可能になる。これらのことから「コミュニケーションの大切さ」を学ぶことができた。

来年には、香川で全中が開催される。今回のインターハイや全中での経験や自身の取り組みなどを地元に戻元できるように活動していき、北海道からのバトンを受け継いで全中を中学生にとって最高の夏にできるようにしていきたい。

派遣に際してご理解ご支援いただいた香川県バスケットボール協会の皆様、ありがとうございました。引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしく申し上げます。